

令和3年産 大麦栽培暦

水見市農業技術者協議会

日	9			10			冬期間			4			5			6							
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下					
生育段階	発芽						分けつ期			幼穂形成期			節間伸長期			出穂期・開花期			成熟期				
主な作業	排水対策の徹底						発芽・苗立確保のポイント			赤かび病防除			カラスノエンドウの抜取り			収穫			調製				
	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り圃地化とする ・大麦の連作は2年までとする ・直ちに排水対策ができる早生又はWCS後ほ場 						<ul style="list-style-type: none"> ・溝と排水溝の連結（乾きにくいほ場） ・基幹排水溝の設置 ・除草剤の散布 ・作溝 ・基肥施用 ・耕起 			<ul style="list-style-type: none"> ・融雪水の排水（降雪前に随時実施） ・排水溝の手直し 			<ul style="list-style-type: none"> ・1回目（穂揃期） ・2回目（1回目から7日後） 			<ul style="list-style-type: none"> ・仕上げ水分は12%とする ・乾燥速度は毎時乾減率1%以内とする ・水分30%以下から刈取開始 			<ul style="list-style-type: none"> ・レーダーの篩目は2・3mmを用いる 			<ul style="list-style-type: none"> ・土作りのため鶏糞の施用（反に100kg以上）や草刈や耕起で雑草対策に努める（カメムシ対策） ・大麦収穫後できるだけ早く播種する 	

収量と品質目標

単収	350kg/10a
品質ランクA格付	100%
容積重	690g/l以上
細麦率	2.2mm(篩)下に2.0%以下
白度	43以上
硝子率	40%以下

土壌改良資材施用 pH6.0~6.5を目標に

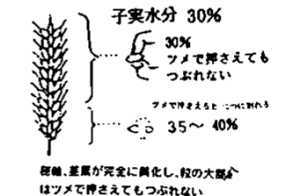
前作	資材名	耕起前(kg/10a)
WCS以外	苦土石灰	100
WCS	珪酸石灰	120
	牛糞堆肥	1500

肥効調節型肥料の施肥量

	粘質土	壤質土	砂壤土
LP大麦48号(kg/10a)	40	40	45

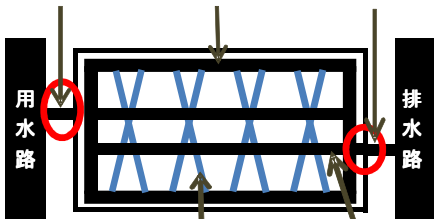
※原則として追肥は行わない

刈取期の目安



排水対策の徹底

- ②水口はしっかり止める
- ③額縁排水溝は早めに設置する
- ④排水口は深く掘り下げる



- ①暗渠排水があればふたを確実に外す
- ⑤サブソイラによる心土破砕
- ⑥播種同時排水溝の溝を排水口につなげる

種子の準備 播種時期に応じた種子の確保

播種時期	目標苗立数(本/m ²)	播種量の目安(kg/10a)
9月25~30日	140	6
10月上旬	150	6.5
10月中旬	200	8.5

- ・余裕を持って計画的に種子を準備しましょう
- ・排水の悪いほ場は、0.5~1kg/10a播種量を増やしましょう

種子消毒

- ・ベンレートT水和剤20の乾燥種子重量の0.5%粉衣(種子10kgに水200mlを加え湿らせ、薬剤50gを入れ混和)

播種作業 乾いたほ場から順次開始

- ・耕起・施肥・播種・作溝の1連作業を1日で完了する
- ・遅くとも10月中旬までに播き終える
- ・サイドリッジャーによる溝は20cmより深く掘る
- ・溝は必ず深く掘り下げた排水口に連結する

除草剤の散布

薬剤名	使用時期	使用量(/10a)
キックボクサー細粒剤F	播種後 出芽前	3~4kg
ムギレンジャー乳剤		400~600ml (希釈水量50~100l)

※表面散播では使用できないので注意

赤かび病防除 赤かび粒の混入限度は0.0%

- ・穂揃期(開花始め)とその7日後との2回防除を徹底
- ・降雨が続いていても、晴れ間を見て確実に防除しましょう

	液剤体系	ドローン体系
1回目の薬剤 穂揃期(開花始め)	トップジンM水和剤 1000倍(150l/10a)	トップジンMゾル 8倍(0.8l/10a)
2回目の薬剤 1回目の1週間後	シルバキュアフロアブル 2000倍(150l/10a)	シルバキュアフロアブル 16倍(0.8l/10a)